

新潟大学「博士のためのキャリアマネジメントセミナー」講義報告

経営の4象限と組織マネジメントの定義と実践

講師：坪井 正志

元 沖電気工業株式会社 取締役専務執行役員

現 技術経営士、一般社団法人技術同好会 理事



2026年6月23日（火）、新潟大学の「博士のためのキャリアマネジメントセミナー」の講座のひとつとして、「経営経験者から学ぶ：経営の4象限と組織マネジメントの定義と実践」と題し、院生37名を対象にハイブリッドで講義を行った（ほかにオンデマンド受講14名）。

1. 講義の狙い

経営者は何を考えているのか、経営戦略はどのように策定されるかを、経営4象限を用いて説明した。後半は、ベクトルの概念を使って組織のパフォーマンスをあげる方法論と具体的な実践例について説明した。物事の普遍的な考え方の延長に、経営者の視点もあるということを理解してもらえれば、今後役に立つと考えている。

2. 講義の概要

経営とは何か、経営者はどのような視点をもっているかを俯瞰する。会社、事業を運営するためには、様々なことについて方針を定めて実践する必要がある。経営でやるべきことを4象限に分けて、横軸に生産性強化と競争力強化を置き、縦軸にビジネスプロセス変革とビジネスモデル変革を置く。各象限は、第1象限「新市場参入」、第2象限「組織の変革」、第3象限「業務プロセスの変革」、第4象限「既存事業の強化」と定義する。4象限の考え方、それぞれの象限において企業が実践すべき、経営戦略/戦術をマッピングする。具体例として、沖電気工業における製造部門での実践例を説明する。具体的な内容を説明することにより、経営者の視点を学べると考える。

企業は組織で構成されており、組織は人で成り立っている。組織のパフォーマンスをあげるためには、所属するメンバー個々のパフォーマンスをあげなければいけない。組織に属する個々のメンバーをベクトルで表すというアプローチによって、組織パフォーマンスを向上させる方法とリーダーの役割について事例も含めて説明した。

3. 学生たちの反応

大変熱心に講義を聴いていただいた。既に起業している受講生もあり、ディスカッションもした。講義後に、受講生から感想、質問をいただいたが、内容はとても理解度が高かった。受講生は自然科学、医学、歯学の研究生であり、企業の話に興味を持ってもらえるか、やや不安ではあったが、組織ベクトル論については研究プロジェクトでも有効であるという意見も多数いただいた。